

OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



プロフィール (Profile)

氏名 OK

所属 法学部 法学科

学年 3年 (留学開始時 2年)

留学先 ハンブルク大学

留学期間 (study abroad period)

2021/10/01~2022/09/30

記入日 (Date) 2022/10/10

留学レポート Study Abroad Report

私は、大学関係者や家族の協力の元、コロナ禍の2021年10月から1年間ハンブルク大学派遣プログラムに参加しました。以上のことから、現在の状況とは大きく異なる可能性を念頭に置いたうえで本レポートを読んでもいただくと幸いです。

ハンブルク概要

ハンブルクはドイツ第二の都市であり、ドイツ北部のエルベ川沿岸に位置する港湾都市です。ハンザ同盟の中心都市の1つであり、ハンブルク市庁舎や世界遺産である倉庫街などが主な観光名所になります。近隣の都市、リュベックやブレーメンへはRegional Expressにて1時間以内で行くことが可能です。

住居について

交換留学生はハンブルク大学側が寮を紹介してくれます。私は運良く、中心街や大学にほど近い、Berliner Tor寮に入寮することができました。この寮は各個人が鍵付きの個室を1部屋借り、キッチンとバスルームは4人で共有する形式でした。キッチンなどを共有するルームメイトは男女混合であり、ルームメイトとは英語で会話していました。他の日本人留学生のなかにはドイツ語で会話していた人もいます。その他、事前に申請すれば寮のcommon roomや、寮所有の楽器を借りることもできました。私は他の留学生と共にパーティーを行う際に何度かcommon roomを利用しました。

大学生活について

ハンブルク大学はDommtor駅近くに位置しています。交換留学生はハンブルク大学の日本学科に籍を置くことになります。日本学科の先生には、留学生活についてのガイダンスをはじめ、何かと留学生活の手助けをしていただきました。また日本学科に在籍中の何人かの学生さんには、チューターとして、私を含む日本人留学生の相談に乗ってもらい、ハンブルクの観光案内などもしていただきました。

日本学科以外の学部の授業を受けるには、受きたい学部の教務課に連絡を取る必要があります。私はチューターさんに助けていただき、いくつかの法学部の授業を受講しました。また、ドイツ語の授業も受講していました。最初はやはりドイツ語で素早く進む授業に苦戦していましたが、徐々に慣れることができました。また、私はドイツ語能力を向上させるために、タンデム(言語交換制度)を利用しました。タンデム制度とは、互いの母国語を学生同士で教え合う制度です。ハンブルク大学の日本学科の掲示板でタンデム制度を利用する相手を探すこともできます。私は前述のチューターさんと週に1回、2時間ほどこの制度を利用して会話練習をしていました。

現地の学生さんとは、チューターさんを介してだけでなく、日本学科の授業にサポーターとして参加することなどでも交流できます。サポーターとして、日本語が文法的に正しいのかについて答えたり、日本文化について紹介することなどをしました。ドイツ語で日本語文法について説明することにはかなり苦戦しましたが良い経験だったと思います。

食事について

私は自炊することが多かったのですが、食費は月に 200 ユーロ程度かかっていたと思います。大学内の Mensa (学食) や売店を利用すると一食あたり 3 ユーロくらいになると思います。一般的なレストランなどで食べると昼食でも 15 ユーロくらいでした。

特に印象的だったことは、様々な国から人が流入しているためか、ドイツ料理だけでなく各国の料理を食べることができることです。私は、日本のものよりも大きく、野菜が多く入ったケパブが特に気に入っていました。またヴィーガンやベジタリアンの方に対応した食べ物も売っているのも特徴的でした。私も時々ベジタリアン食を食べていたのですが、とても美味しかったです。現地のベジタリアンの学生さんは「ベジタリアンの人が増えてきたので、社会や企業もより質の高いベジタリアン食を作るようになったんだ」と言っていました。ドイツ料理だけでなく、ヴィーガン食も一度試してみることをおすすめします。

観光について

ハンブルク市内にはミニチュアワンダーランドや移動式遊園地などの観光名所があります。現地で知り合った学生と行きましたが、文化の違いに驚きつつも、とても楽しかったです。近郊の観光地としてはリュベックやブレーメンが有名です。どちらも日帰りで観光することができます。また、少し遠出になりますが、リュネブルクやツェレ、ハノーファーなども観光地として有名です。このレポートの最初の写真はリュネブルクで撮影したものです。北ドイツはレンガ造りの建物が比較的多いのですが、リュネブルクは南ドイツのような木を多用した建物と北ドイツ的建物が混在していてとても美しい町でした。

私は入国規制が旅行中に変更されるという事態になりかねないので行きませんが、夜行列車や航空機を利用して隣国のフランスやイタリア、北欧などにも旅行した留学生もいました。ハンブルクは大都市なので乗り継ぎを余りせずに、他国に行くことができます。



ブレーメン 音楽隊像

最後に

ドイツに留学した際には、思いもよらないトラブルに巻き込まれることもあるかもしれません。私は滞在ビザの有効要件である保険への加入が保険会社側の判断で一方的に解除されたことがあります。結局は保険会社側のミスだったのですが、なかなか肝を冷やす体験でした。このときも、ハンブルク大学の担当の方、現地のチューターさんをはじめとする学生さんたちが助けしてくれました。

留学先でトラブルに巻き込まれないよう細心の注意を払うことは留学生にとって重要なことですが、それと同程度に重要なことは、トラブルに巻き込まれたら直ぐに周りの信頼できる人に相談することだと、私は思います。

このレポートが少しでも皆さんの参考になることを願います。
ここまでお読みいただきありがとうございました。



アルスター湖



世界遺産 倉庫街